



満月の夜開く けいはんな哲学カフェ

# 第60回「ゲーテの会」

未来に向かう人類の英知を探る  
— 時代の裂け目の中で、人々は何に希望を見出してきたか —

《科学・技術分野》

## 日本近代化の立役者たちを輩出した適塾 「緒方洪庵」の志

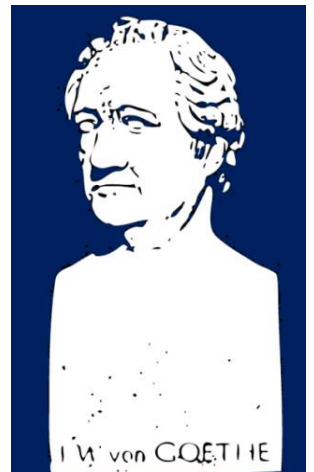
講師：大阪大学微生物病研究所  
籾本難病解明寄附研究部門教授 木下タロウ 先生

**【講演要旨】** 緒方洪庵（1810-1863）は幕末の大坂において蘭学塾である適塾を主宰した。20数年間に学んだ塾生は1,000人を数え、橋本左内、大村益次郎、福沢諭吉、長与専斎、佐野常民ら歴史に名を残す多くの人物を輩出した。洪庵は蘭学を通じてヨーロッパの最新医学を伝えるとともに、当時深刻な感染症であった天然痘の予防事業を関西一円で精力的に行って大きな成果を挙げた。これは幕府の認めるところとなり、奥医師そして西洋医学所頭取として召し出されたが、病を得て翌年に江戸で没した。適塾での教育は、洪庵が直接教えるというより、オランダ語の原書を辞書を頼りに読み込んだ塾生同士が、議論して学び取るという形であった。切磋琢磨して合理的な考え方を身につけた塾生の中から、医学を超えて日本の近代化に貢献した人たちが育ったと思われる。講演では、社会の胎動期に生きた洪庵の生涯から見えるものを考えてみたい。

**【講師紹介】** 大阪大学微生物病研究所籾本難病解明寄附研究部門教授  
東京大学農学部卒業（1974）、同大学院農学系研究科修士課程修了（1977）、大阪大学大学院医学研究科博士課程修了（1981）。医学博士。日本学術振興会奨励研究員（1981）、ニューヨーク大学博士研究員（1982）、大阪大学医学部細菌学助手（1982）、同講師（1988）を経て、大阪大学微生物病研究所教授（1990）。同研究所所長（2003）、同大学免疫学フロンティア研究センター副拠点長（2007）。2017年から現職。大阪科学賞（2001）、文部科学大臣表彰（2010）、IGO Award 2015、武田医学賞（2017）、日本免疫学会ヒト免疫研究賞（2017）受賞。生化学と免疫学の基礎研究のかたわら適塾の顕彰活動に携わってきた。

**【参考図書】** ご講演の内容の理解を促進するために次の図書が有益です。  
梅溪昇著『緒方洪庵と適塾』大阪大学出版会 1996年

日時： 2018年6月28日（木） 18:00～ 20:30  
会場： 公益財団法人国際高等研究所  
参加費： 2,000円（交流・懇談会費用を含む）  
定員： 40名（申し込みが定員を超えた場合は抽選）  
申込： 高等研のHPからお申込みください  
<http://www.iias.or.jp/communication/goethe>  
締切： 2018年6月25日（月）  
問い合わせ先： 国際高等研究所 ゲーテの会事務局  
TEL：0774-73-4000 E-mail：goethe0828@iias.or.jp



けいはんな「ゲーテの会」とは・・・

けいはんな学研都市の建設理念は、「従来の近代科学技術文明を乗り越え、新たな地球文明を創造するために、西欧が生み出した文明の成果と自らに固有の東洋の文化を総合する」ことにあります。高等研にあるゲーテの胸像はその理念のシンボルです。満月の夜は高等研で、人類の未来と幸福・けいはんな学研都市の将来について一緒に考えてみませんか。